

ラ フォレ セ ラ ヴィー ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



チャド共和国トゥルバ地域ビルケレラ・アブラフェリ村で1993年に住民によって植えられたニームの苗木が、人々に木陰を提供出来るまでに成長しました。

早いもので私が「緑のサヘル」の代表をお引き受けして、もう一年が経過しました。体制が一新されたことに加えて新しいスタッフの参加等も続き、本当に新規まき直しの感が強い一年となりました。

この間、全く不安がなかったかと言えば嘘になりますが、それでもチャドとブルキナファソ、そして東京と、各拠点の日本人スタッフ、ローカルスタッフのそれぞれが精一杯に取り組んでくれたお陰で、笑顔をもって進んで来ることが出来ました。何よりも嬉しかったのは、より判りやすいニュースレターへのリニューアルの途上にありながらも、支援者の方々からの反響は大きく、皆様のお励ましを身近に感じる事が出来たことでした。

さて現地の近況ですが、ブルキナファソでは大統領選挙がつつがなく終わり、懸念されていた騒乱がなかったのは幸いでした。しかし、チャドでは大統領選挙に起因した政情不安が続いており、予断を許さない状況にあります。現在、日本人スタッフは全員、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）からの指示によって一時的に帰国しています。活動は現地スタッフの手によって進められていますが、決して万全とは言えません。日本人スタッフの再赴任に向けて、一刻も早い治安の回復を望む毎日が続いています。

また、今年は「砂漠と砂漠化に関する国際年」であることから、日本においてもそれを意識した取り組みがなされるでしょうし、「緑のサヘル」もその一翼を担いたいと考えています。今年度も忙しい一年になるでしょうが、スタッフ共々、笑顔を絶やさず頑張りたいと思います。

（緑のサヘル代表 岡本 敏樹）

チャド共和国の治安状況について

● 難民キャンプとアベシエ地域のプロジェクト

チャド共和国東部のアベシエ地域では、隣国スーダンの内乱を逃れて来た約 20 万人の難民が 12 のキャンプに収容されており、耐乏生活を余儀なくされています。この地域では人口と家畜が急激に増加し、生活に必要な薪や飼料も膨大な量となったため、植生の減退と土地の荒廃が進んでいます。こうした状況は、難民の生活を更に厳しいものになっているだけでなく、以前よりこの地域で暮らしていた周辺村落の住民の生活まで危機的なものになっています。2004 年 4 月、緑のサヘルは難民キャンプを設置している UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とパートナー契約を結び、キャンプおよび周辺村落の環境保全活動に着手しました。

● 緑のサヘルの活動

活動はこれまで蓄積して来たノウハウを活かせるものがほとんどで、今ある緑を守るための「改良カマド普及」と、積極的に緑を増やすための「育苗・植林」が中心となっています。2005 年は約 4,000 世帯に改良カマドを設置、使用指導が続けられています。この改良カマドの適切な使用によって薪の消費が半減し、薪木の伐採量を減らすことが出来るので、植生の保護には大きな効果が期待出来ます。また、3 つの育苗所で計約 48,000 本の苗木が生産され、4 つのキャンプと 46 の市町村に植栽されました。

● 治安の悪化

このチャド共和国では現イドリス・デビ政権と、それに不満を持ち、デビ大統領の退陣を迫る反政府勢力との対立が顕著となり、昨年 12 月以降は両者による衝突がスーダンとの国境付近でたびたび起きています。また、国際機関や NGO の車両が奪われる等の被害も起きています。4 月には反政府勢力の一部が首都ンジャメナへ向けて侵攻し、一時首都近郊においても戦闘が行なわれる等、国内は騒然としました。緑のサヘルが事務所を構えるアベシエ市（首都の東約 800km）とその周辺は比較的平静を保っていましたが、国連難民高等弁務官事務所やフランス軍の指示に従って、緑のサヘルを含む多くの NGO が活動や常駐人員を縮小し、外国人スタッフの一時避難に踏み切っています。



現地スタッフによる育苗



遠方で確認された戦火

● 今後の見通し

5 月初めに行なわれた大統領選挙では、デビ現大統領が 3 選を果たしました。以降、反政府勢力の活動は鳴りを潜めており、状況も小康を保っていますが、現政権に対する不満自体はむしろ募っており、未だに予断を許しません。現在、活動は現地スタッフの手によって進められていますが、日本人スタッフも治安が確保され次第、活動に復帰する積りです。ご支援頂いている皆様には一方ならずご心配をおかけしますが、今しばらく状況をご静観頂きますようお願い致します。



(チャド担当； 佐藤裕美)

アベシエ地域環境保全事業：UNHCR パートナー事業

(2006 年 1 月～4 月)

チャド共和国では、現地 NGO の活動を支援する「現地団体支援事業」と、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が設置したスーダン難民キャンプとその周辺地域を対象にした「アベシエ地域環境保全事業」が進められています。

今回ご報告する「アベシエ地域環境保全事業」では、育苗所での苗木生産、キャンプ地・周辺村落での改良カマド普及が展開されていますが、チャド共和国全体の治安状況の悪化が懸念されています。現在、UNHCR をはじめ、プロジェクトに参加しているパートナー NGO も、難民キャンプや周辺地域での活動はもちろん、地域の拠点であるアベシエにおいても慎重な警戒態勢を心がけ、また事業規模最小限にとどめるなどして活動に従事しています。

1. 苗木生産

昨年 2005 年度は、アドレ、ファルシャナ、ハジャラ・ハディッドの 3 村の近郊に、それぞれ 1 つずつ育苗所を設置しましたが、2006 年度は政情不安を鑑みて、スーダン国境にほど近いアドレ育苗所を閉鎖し、ファルシャナとハジャラ・ハディッドの 2 つの育苗所で、集中的に苗木を生産することになりました。

今年は、苗木の植栽を行なう地域の住民や難民などの要望を反映し、日本でも馴染みのある柑橘系の果樹（オレンジやレモン、グレープフルーツ）や、その他マンゴーやパパイヤなどの樹種を、昨年度よりも多めに植栽することになっています。2005 年の 12 月下旬から育苗作業を開始し、1 月末日時点では土詰め作業もほぼ終了、最終的には約 60,000 本の苗木が生産される予定です。3 月末日現在、苗木全体の発芽率は概ね 8 割を越えて、現在も順調に成育しており、総じて昨年同様高い水準を保っています。

2. 粘土製改良カマドの普及

この地域におけるもう一つの根幹事業である、粘土製改良カマドの普及と使用状況調査も、難民や地域住民の協力を得て、順調に行なわれています。

一度改良カマドを作製し使用した後、自分自身で材料を探し、もう 1 つ作る家庭が増えるなど、普及活動の結果も徐々にあらわれています。カマドの作製・使用講習会などを通じ、改良カマドを使用することが薪炭材の節約につながるということに理解を示し、積極的な姿勢で緑のサヘルの活動に協力する難民や地域住民が増えていることに、活動の手ごたえを感じています。

＜改良カマドが出来るまで＞ 粘土製改良カマドの作製方法を一挙公開です！

1.



2.



3.



4.



1. 家畜の糞や粒子の細かい土を混ぜ合わせ、さらに寝かせた土を良くこねます。
2. レンガを立ててカマドの大体の大きさを決めます。こねた土は棒状に伸ばし、レンガの周りに重ねるように置きます。
3. 水分を含ませながら、形を整えます。この後、薪をくべる穴、空気穴などを作ります。3 日～1 週間ほど乾燥させたら出来上がり。
4. カマドの使用状況調査を行なっているところ。従来のカマドと改良カマドを使い比べています。



(ブルキナファソ担当；水真 洋子)

タカバングゥ地域生活保全事業/技術移転事業

(2006年1月～4月)

ブルキナファソでは、北部のサヘル州に位置するタカバングゥ村を中心とする地域において、住民が行なう生活環境整備や食糧生産活動を支援する「生活保全事業」と、砂漠化に対処する生活作りを支援する「技術移転事業」（環境省による地球・人間環境フォーラム委託事業）が実施されています。

1. 生活保全事業

生活環境整備活動の担い手である青年グループからは、2006年度の活動として、村内5か所に対する9樹種740本の植林、現在6か所ある植林区への補植と管理、村近郊にある季節河川への砂流入を防止するための蛇籠設置、河畔への果樹園と囲いの設置等が希望として寄せられています。現在、活動が開始される雨季に向けて、計画の妥当性や実施の詳細が話し合われています。また、これらの植林活動に使われる苗木の生産に対する、資機材および技術支援が既に進められています。

食糧生産活動への支援としては、女性グループが行なう野菜栽培、青年グループと女性グループがそれぞれ実施している穀物銀行がその対象となりますが、青年グループは技術移転事業の活動の中で知り得た技術、特に荒地回復のための技術であるザイを使用しての植林及び穀物栽培の実験も計画しています。

2. 技術移転事業（環境省による地球・人間環境フォーラム委託事業）

昨年度住民との話し合いでは、荒地回復、畜耕、石鹼作製、裁縫の各技術が移転の対象に選ばれました。決定した4つの技術は、それぞれの活動に参加を望むトライアルグループによって、タカバングゥ地域におけるより実践的・効果的方法の確認とその習得が進められています。

荒地回復グループはこの分野の活動の先進地域への視察（1月）、畜耕グループは家畜調教研修（1月）を行いました。石鹼作製グループは油抽出、香料作製、石鹼作製研修を実施（1～2月）、裁縫グループはミシン使用研修（2月）が行なわれました。また、2月末から3月にかけて、村全体を対象としたワークショップが開かれ、各グループによって一年間行なって来た活動の内容・問題点・利点等について報告がなされ、村からの意見と助言を受けました。これらの反響は今後の取り組みに活かされることになります。



土壌の回復実験



ロバによる耕起



作製された石鹼



グループとの打ち合わせ

＜お知らせ＞

このたび、当会スタッフの利川豊が、緑のサヘルでの活動に区切りを付け、会を離れることとなりました。利川は2001年に緑のサヘルに参加、以降ブルキナファソ・プロジェクトの調整員を中心に務め、2005年にはチャドで実施されている難民支援プロジェクトの調整員も務めました。フランス語が堪能で、温厚かつ考え深い性格から現地の方々からの信頼も厚く、惜しまれながらの離任となります。今後はまた違った形で、大好きなブルキナファソと関わって行きたいとのことです。

～ お励まし下さった皆様へ ～

皆さん、こんにちは。このたび私、利川は長い間お世話になった緑のサヘルを離れることになりました。私は 2001 年より緑のサヘルに参加しましたが、その後 5 年の間に日本、またブルキナファソで、本当に多くのことを学ばせてもらいました。

私の仕事は、ブルキナファソの首都ワガドゥグゥと現場のタカバングゥ村を行き来しながら、プロジェクトの調整を行なうことでしたが、業務を通じて実に多様な作業に携わることが出来ました。また、2005 年の 6 月からは 4 か月と短い期間ではありましたが、チャド東部スーダン難民支援事業にも携わり、貴重な経験することが出来ました。経験も知識も不十分だった若者に、このようなチャンスを与えてくれた「緑のサヘル」に感謝するとともに、様々に支えてくれた先輩、同僚や友人、支援者の方々、そしてタカバングゥを始めとする村人にはいくら感謝してもしきれません。

タカバングゥでは、「支援する」立場にありましたが、実際には多くのことを「支援される」村人から学びました。タカバングゥの村人は緑のサヘルから派遣されて来た日本人、というだけでアフリカを知らない、全く役に立ちそうもない私を快く受け入れてくれました。このアフリカの大きな懐に抱かれて、どのような活動が住民にとって喜ばれるのか、どうしたら住民がより良い暮らしを出来るのか、そしてその中で自分がどう関わって行くかを考えることが出来ました。

「緑のサヘル」という団体は、砂漠化防止への貢献を目標に掲げて活動していますが、目的はそれだけには留まらないと私は思っています。ある日本の識者が言っていました。

「木を植える－

それは生命を植えること

それは未来を育てること

それは平和を育てること」

私が 5 年間の活動を通じて感じたのはまさにこのことでした。木を植えるという行為が環境を回復し、砂漠化を防止するだけのものではなく、生命を植えることにもつながり、そこから未来、そして平和を育てて行くことにもなることを深く実感しながら活動に携わることが出来ました。受益者である村人からのニーズがある限り、事業が終わることはありません。また、それは活動を変え、組織を変えても続いて行くものだと思います。そういう意味でも、決して希望を捨てずに今後もアフリカに付き合っていくと思っています。

2004 年度のノーベル平和賞を受賞された、ケニアのグリーンベルト運動の指導者であるワンガリ・マータイ博士はこう叫んでいます。

「どんなに希望がないように見えても、希望の光はある。」

アフリカから聞こえて来るニュースは飢餓や内戦など暗いものばかりですが、21 世紀はアフリカの世紀です。ほんの僅かでも希望の光がある限り、きっとアフリカは平和の道を進んで行くと、私は信じています。そしてそのために、今後ともアフリカの平和のためにがんばって行くつもりです。長い間、本当にありがとうございました。

緑のサヘル 利川より



利川さん、長い間、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました！



活動報告3

国内活動



1. 引越し致しました！

* * * * *

2月25日をもって、江東区の旧事務所から千代田区神田の新事務所への引越しが完了致しました。新しい住所に変わって心機一転、緑のサヘル・スタッフ一同、日々業務に邁進しております。現場の治安悪化等もあって、一時は海外専従スタッフのほぼ全員が帰国（！）という状態になり、片付けもままならない事務所がてんやわんやになったこともありました。

以前に比べると分かりにくい場所なので、来訪者が減ってしまうことを懸念していましたが、お陰さまで全国各地からの修学旅行生をはじめ、多くのお客様がお見えになり、また、緑のサヘルの活動に関心を持っている方やボランティアを希望する方々も来て下さるようになりました。

これからも皆様にとって開かれた窓口となるよう、活気のある事務所にして行きたいと思います。

＜新住所のご案内＞

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町1-6
田澤三ビル 3F

お近くにお越しの際は、
是非お気軽にお立ち寄り
ください！

電話：03-3252-1040 FAX：03-3252-1041

2. 参加イベント

* * * * *

4月22日～23日 アースデイ（代々木公園） 5月20日～21日 アフリカンフェスタ（日比谷公園）

なんと言っても春はイベントの季節です。日頃事務所の中に閉じこもりがちな私達にとって、うららかな春の陽光とあざやかな新緑を一日満喫できる、貴重な屋外でのお仕事です。……事務局の事情はどうあれ、より多くの方々に緑のサヘルの活動を知っていただく！ということで、4月22日と23日には代々木公園で開催されたアースデイに、5月の20日と21日には日比谷公園で開催されたアフリカンフェスタに参加してまいりました。

アースデイには国内外で活動する様々なNGOやNPO、オーガニック製品を扱う企業などによる展示や即売会が行なわれ、一方で会場内にある野外ステージではライブパフォーマンスが繰り広げられるなど、多くの人出で賑わいました。また、アフリカンフェスタでは、アフリカ各国の大使館をはじめ、アフリカにゆかりのあるNGO・NPO団体による展示や販売が行なわれ、こちらも大盛況のうちにおさめることができました。



アースデイ；

初日の土曜日は曇天、2日目も閉会間際に雨模様……というお天気ではありましたが、渋谷と原宿に近い代々木公園での開催ということもあって、若い方をはじめ、国際協力や環境保全に関心のある方などで賑わいました。
(写真はアースデイの様子)

アフリカンフェスタ；

こちらはアフリカ関連のNGO・NPOはもちろん、日本の外務省やアフリカ各国大使館の協賛を得て行なわれる一大イベントです。



当日はアフリカ音楽のコンサートや、民芸品の製作体験、有識者による講演及び参加団体の活動紹介などが催されました。初日の20日土曜日はまるでアフリカの

雨季を思わせるような激しい雨におそわれ、予定時間より早めの店じまいとなりましたが、2日目の21日は、まさに「五月晴れ」の好天に恵まれ、多くのお客様が会場を訪れました。照り輝く太陽のもと、アフリカ太鼓によるダンザンブルな音楽が霞ヶ関の官庁街に鳴り響く光景は、大変印象的でした。

(右写真はアフリカンフェスタの様子)

ありがとうございました

【 新規会員のみなさま 】

佐々木 修一／こじまこどもクリニック／内藤 篤

【 継続会員のみなさま 】

瀬戸 義子／瀬戸 進一／吉田 敏子／佐々木 順平／梅田 暢子／真砂 友子／猪股 満希子／宮根 恭子／菅沼 浩敏／
片岡 稔、千尋／佐々木 修一／向後 元彦／畑中 健一／滝川 なおみ／碓井 道子／加藤 洋一郎／足達 聡／宇都宮 雍子／
石黒 勇平／河村 ミヨ子／橋口 日出夫／小池 昌子／佐藤 京子／河合 令子／佐貫 眞木子／澤井 温子／小林 盛治／
大矢 四十六／和田 浩／青山 初穂／野々山 富雄／ 福川 佐代／佐藤 由規／郷 保治／小枝 清子／大久保 久美子／
宮崎 英寿／合川 幹男、憲子

【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

高比良 玲子／小林 伸張／加藤 正博／酒井 典之／瀬戸 義子／中村 信／もりぐち おさむ／藤原 聡子／小林 紗夕／
吉岡 敏子／群馬県太田市立旭中学校1年1組／大阪信愛女学院短期大学／増田 千代子／大阪信愛女学院中学校／
大阪信愛女学院小学校／宮本 誠／藤田 知幸／天野 洋子／田中 京子／滝川 なおみ／土屋 絢子／松本 文子／碓井 道子／
宇都宮 雍子／小島 知子、訓子／袴 良子／山田 静子／小百合幼稚園／熊谷 雄一／佐々木 由果／深澤 美智子／
コラールハウジング有限会社／内藤 篤／野々山 富雄／青山 初穂／鈴木 一也／小枝 清子／榎本 みつ枝／竹内 信

【 助成団体からの助成金 】

日本経団連自然保護基金／社団法人 国際農林業協力・交流協会／財団法人 国際緑化推進センター／財団法人 イオン環境財団／
毎日新聞東京社会事業団／財団法人 地球市民財団／特定非営利団体 アーユス仏教国際協力ネットワーク

(敬称略、入金順)

上記は2006年1月1日から2006年4月30日までにご支援頂いた方のご芳名であり、2006年5月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。また、お名前の公開を承諾された方のみを掲載させて頂いています。あらかじめご了承下さい。



お話を聞いていただいていたありがとうございます！

3月20日	中東理解講座講演 (菅川)	4月27日	喜多方市立 山都中学校 (福島県)
4月2日	民生東大駒場 (佐藤)	5月9日	大府市立 大府南中学校 (愛知県)
4月12日	宮古市立 宮古第一中学校 (岩手県)		弥富市立 弥富北中学校 (愛知県)
4月13日	盛岡市立 見前中学校 (岩手県)	5月11日	新潟市立 下山中学校 (新潟県)
4月18日	福島市立 大島中学校 (福島県)	5月22日	稲沢市立 祖父江中学校 (愛知県)
4月19日	盛岡市立 乙部中学校 (岩手県)	5月30日	四日市市立 常盤中学校 (三重県)

♪ 事務所訪問や講師派遣のご依頼は東京事務局までお気軽にお問い合わせください ♪

おしらせ

書き損じ葉書で国際協力しませんか？

書き損じ葉書、使わなかった古い年賀状などを大募集しております。1枚でもかまいません。どうぞ緑のサヘルにご寄付下さい。いただいた葉書は、新品と交換もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

昨年从今年9月までに届いた書き損じ葉書は300枚以上(15,000円分以上)に上ります。これらの葉書の一部は、報告会の広報等で大切に利用いたしました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

絵葉書 プルキナファソからの便り

第47回産経児童出版文化賞受賞の小松義夫氏の作品による緑のサヘル特製プルキナファソ絵葉書も発売中です。

穀物を風で選り分ける婦人の姿が特徴的なAセット、タカバングウ村の少女も収められたBセットの2種類があります。また、今年からは一枚からでも販売しております。ご注文は緑のサヘル事務局までお願いいたします。なお、売上は活動費に充てられます。

価格400円/1セット(4枚)

100円/1枚

※ 郵送ご希望の場合、郵送料は別途申し受けます。

緑のサヘル オリジナルカレンダー

おかげ様をもちまして2006年カレンダーは大好評を頂き、販売部数は05年度の50%増となりました。07年カレンダーにも、どうかご期待下さい！

【目次】

- | | |
|------------------|------------|
| 1・・・表紙 | 5・・・スタッフ挨拶 |
| 2・・・チャドの治安状況について | 6・・・国内活動報告 |
| 3・・・チャド活動報告 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・プルキナファソ活動報告 | 8・・・お知らせ |

編集後記

1960年の独立以来、内乱続きだったチャド。活動を始めた92年にもその痕跡がそこに残っていました。次第に復興し、ようやく平和を享受出来ると思った矢先の騒乱に、思いは複雑です。(菅川)／緑のサヘルに入って、1年が経ちました。サヘル地域に根付く苗木のように、日々すくすくと成長していきたいと思います。(水真)／5月のやさしい雨と新緑の香りが、東京の空気にも初夏を感じさせる今日この頃。日本の四季は本当に素晴らしいですね。(佐藤)

お餞別・お祝いにどうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】郵便振替用紙にご依頼様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北 東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細は、同封のチラシをご覧ください。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 26

編集 菅川 拓也、水真 洋子、佐藤 裕美 / 発行 菅川 拓也 / 発行所 緑のサヘル / 印刷 社会福祉法人 東京コロニー

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-32521040/FAX:03-3252-1041

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : sahel@jca.apc.org